

令和3年第15回建設トップランナーフォーラム

地域の担い手をどう育てるか

日時 / 令和3年6月25日(金) 14:00 ~ 18:00

会場 / イイノホール Room A (大会議室) からネット中継

開催趣旨

建設トップランナー倶楽部代表幹事 米田雅子



建設トップランナー倶楽部は、インフラの町医者をめざして、防災の担い手、インフラの守り手、雇用の支え手として活動してきました。地球温暖化で気象災害が増え、インフラの老朽化による事故が多発する中で、その役割は重要になっています。しかし、担い手不足が深刻なため、本フォーラムでは「地域の担い手をどう育てるか」に焦点をあてます。

第1部は「若手の確保と定着への努力」で、地元の高校等との連携、若手の資格取得や就学支援、職場の処遇改善、建設業の魅力アップへの取り組み等の事例を発表します。

第2部は「多様な人材を育てる努力」で、女性、高齢者の活用や、外国人の受け入れと育成、勤務形態の改善や柔軟化、総合的な支援体制などを紹介します。

第3部は「地域の人材を生かす取り組み」で、農業・林業・介護などとの複業で、業種をこえて地域の人材を育成する事例を発表します。

人手不足の問題は建設業だけではなくあらゆる分野で起こっています。この背景には日本の人口減少があります。歴史を振り返ると、明治維新の時に3300万であった人口が、2008年には1億2800万人になり、それが一転して、2100年には5000万人から6500万人になると予測されています。今後100年で100年前(明治後半)に戻る可能性があります。明治以降の人口の激増と現代の人口の激減は、日本の歴史上、類を見ない変化です。

人口予測は正確だと言われており、人口減少は、日本の産業構造を変えるかもしれません。農業の人手不足も深刻です。農業と建設業の複業で地域を支えるニーズが増えそうです。田植えと稲刈りの時期は公共事業はやらないことにするなど、業種を超えて、地域で仕事を平準化することも必要でしょう。

限りある人材を業種を超えてシェアする、農業と建設業の多能工化、林建協働、建設と介護の複業など、これまで建設トップランナー倶楽部が推進してきた複業が、先駆的意義を持つと思います。本フォーラムを通して、将来の地域の担い手のあるべき姿も議論して参ります。